



「日本酒を通じて世界が広がりました」と阿久沢さん

輝いています

ひと

2021 Miss SAKE 埼玉
阿久沢 莉良 さん

日本酒・日本文化を世界へ

見

た目の美しさのみを競うのではなく、日本酒の知識や着付け、生け花といった伝統文化など、幾つもの教育課程を通じて、その取り組みや成長の過程が評価されるMiss SAKE。このコンテストで、2021 Miss SAKE 埼玉に選出されたのが阿久沢莉良さん(22歳・塚越5丁目)です。我が国伝統の食文化である日本酒や日本文化を国内外に発信するアンバサダー(大使)として、3月から活動を始めています。

塚越で育ち、幼いときから塚越稲荷社の盆踊りやおはやしに親んでいた阿久沢さん。一方で、芸術や食など、世界中を魅了するフランス文化への憧れが高まり、高校生のときに留学をします。1年間の海外生活で驚いたのが、日本について多くの人が興味津々だったこと。それを誇りに感じる反面、ときには日本文化に関する知識不足を痛感し、今まで気づけなかった日本の魅力や自らの考え方を見つめ直すきっかけとなりました。

帰国してからも異文化交流を続けるなか、大学進学後に出会ったのが同コンテスト。日本女性としての成長と発信の場が得られると、参加を決心します。審査では海外での経験から、日本と世界の懸け橋になりたいという熱意が届き、約2000人の応募者からみごと21人に選ばれ、埼玉代表の座を射止めたのでした。

清酒出荷量が常に全国上位に位置する酒どころの代表として、まずは「埼玉といえれば日本酒」といわれるよう、就職活動と並行して県庁や酒造組合を敬訪問するなど精力的に取り組んでいます。最近では廠の双子織に関心を寄せ、「地元にも魅力的な伝統が息づいています」と、再発見に目を輝かせる阿久沢さん。これからは日本文化の紡ぎ手となるべく、日々精進していきます。

今月の河鍋暁斎記念美術館

天才絵師の作品 蔵にあり

—No.63—



現在の茨城県古河市に生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい
河鍋 暁斎
天保2年(1831)
～明治22年(1889)



本作品は現在の展覧会で御覧いただけます

暁斎筆「天竺渡来大評判象の戯遊 道成寺ほか」
文久3年(1863) 恵比須屋板 大判錦絵



詳しい内容は美術館のホームページをご参照ください

暁斎は文久3年(一八六三)、板元の恵比須屋庄七と見世物の象を見に行ったことが分かっています。暁斎はその時の写生を基に、象を写実に描いた団扇絵や、このような戯画を描きました。この「象の戯遊」シリーズは現在のところ5枚見つかっていますが、いずれも象が人間さながらの動きで、海外の人々とともに曲芸などを行っています。本図の上の方では、歌舞伎などの「道成寺」で、大蛇となつた清姫が鐘に巻き付く様子を、象の長い鼻を誇張して描いています。

河鍋暁斎記念美術館 開催中

「暁斎が描くいきもの一写生から戯画へ」展
同時開催・特別展「第35回かえる」展

開館=午前10時～午後4時
休館=火・木曜日、毎月26日～末日
ところ=南町4-36-4
入館料=一般600円 高校生・大学生500円
小・中学生300円 65歳以上500円
※65歳以上の人は年齢の分かる物、学生は学生証をご提示ください
詳細=同館(☎441・9780)